

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDF ファイルに変換した後, ホームページに貼り付けてください。

| | | | | | |
|-----|--------|----------|-----|-----|----------|
| 学校名 | 愛知教育大学 | 個人・グループ名 | りんだ | 作品名 | 入れ替わり貯金箱 |
|-----|--------|----------|-----|-----|----------|

製作の動機・目的: 一つの貯金箱で小銭を分けたかったため、小銭の入り口を6つ作り投入口によって小銭を分けられる貯金箱を製作しました(写真1・2)。

利用方法: 小銭を投入するための穴が六つあり、それぞれに小銭の金額が書かれています。各投入口に小銭を入れます。例えば、10円を入れます(写真3)。その10円は投入口とは逆の扉の中に小銭が貯まります(写真3)。一つの貯金箱で小銭の種類分けがされるため、必要な小銭をすぐに取り出すことができます。また、各小銭の合計金額を簡単に分かりやすく調べることができます。

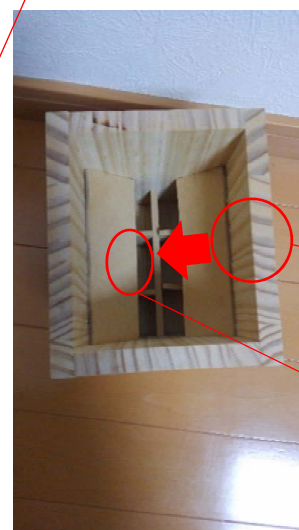
工夫したとろ: 一つの貯金箱で小銭を仕分けられるように工夫しました。具体的には、投入してすぐのところに斜面を付け、投入口とは逆の穴に小銭が滑り落ちるようにしました(写真3)。各小銭の投入口を向かい合う二面に設定し、6種類の小銭を分けられるようにしました。製作過程で工夫した点としては、斜面を作る際にくぎなどを出さないようにするために、ボンドで接着をしました。しかし、斜面をボンドにしたことで、強度に不安が残ってしまいました。強度面に対してもう少し不安が残らないように工夫できると良かったです。もう一つは、取り出し口を工夫しました。取り出し口の扉に蝶番を使用することで、小銭が貯まる場所にふたをすることができます。また、開け閉めが自在なため、小銭の取り出しに苦労しません。取り出し口を面の中に納まらないようにしたのはデザインに特徴を持たせたかったからです。



写真1



写真2



10円の投入口

10円が貯まる場所

写真3